

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令されていますが、報告数は徐々に減少しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

全数把握の対象

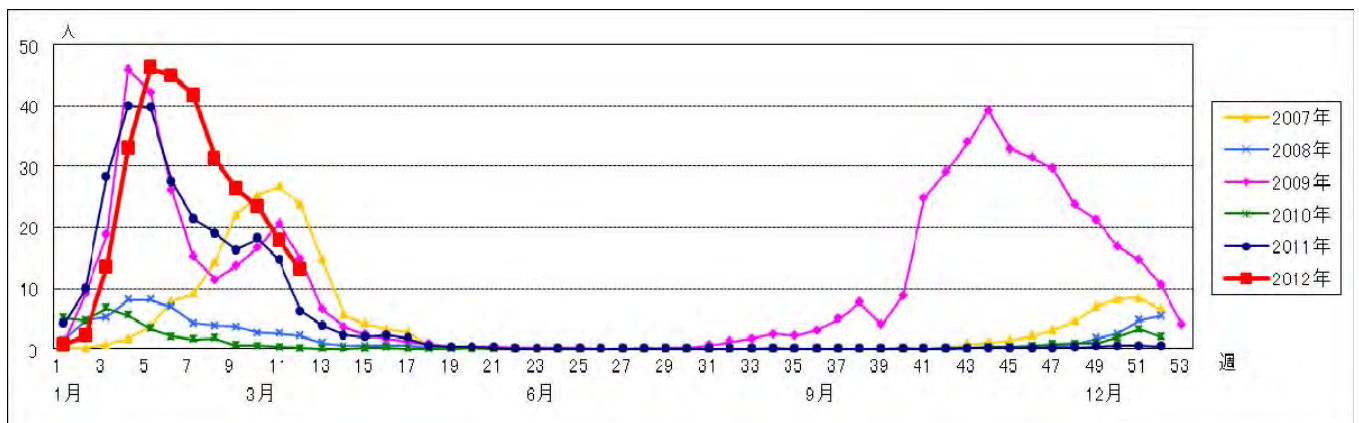
- 腸管出血性大腸菌感染症:3 件(O157 VT1VT2 が 2 件、O111 VT1VT2 が 1 件)の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。
 ◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- A 型肝炎:10 代の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されていますが、周囲に感染者はおらず明らかな原因は不明です。
- マラリア:2 件の熱帯熱マラリアの報告がありました。それぞれ、アフリカでの感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の 4 種類に分かれますが、中でも熱帯熱マラリアは短期間で重症化する危険があります。診断は血液塗抹標本をギムザ染色し、光学顕微鏡で検査する方法が一般的です。
- アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1 件の報告がありました。遺伝子型は現在検査中です。
- 風しん:2 件の報告がありました。1 件は 10 代で予防接種歴不明。発しん、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状から診断されました。もう 1 件は 30 代で予防接種歴なし。職場の同僚が風しんであり、発しん、発熱、リンパ節腫脹を認めたことから診断されました。

定点把握の対象

- インフルエンザ:第 5 週に市全体で定点あたり 46.26 と流行のピークとなり、以後徐々に減少し、第 12 週では 13.06 となっています。迅速キットの結果は徐々に B 型が増加し、第 12 週では 86.6%が B 型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3 型 90 件(64.3%)、B 型(ビクトリア系統)31 件(22.1%)、B 型(山形系統)18 件(12.9%)、B 型(解析中)1 件(0.7%)でした(第 12 週現在)。市内で検出されたウイルスの内、AH3 型 89 株についてワクチン株(A/Victoria/210/2009)との抗原性解析を行ったところ、HI 試験で、4 倍が 7 株(7.9%)、8 倍が 59 株(66.3%)、16 倍が 23 株(25.8%)でした。また、市内で検出された B 型(Victoria 系統)34 株についてもワクチン株(B/Brisbane/60/2008)との抗原性解析を行ったところ、同等が 1 株(2.9%)、2 倍が 11 株(32.4%)、4 倍が 22 株(64.7%)でした(第 12 週現在)。

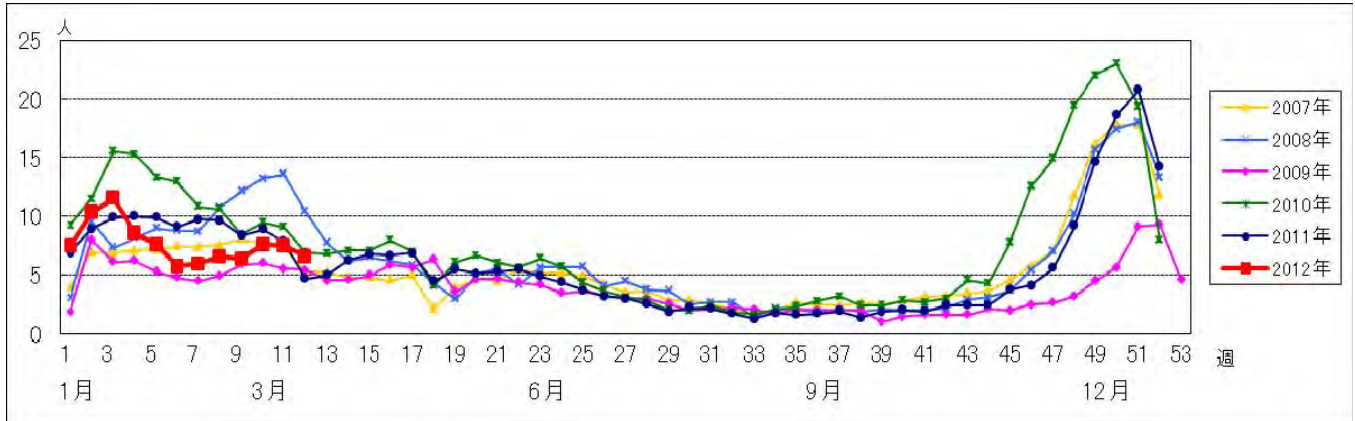
平成 24 年 週一月日対照表	
第 8 週	2 月 20～26 日
第 9 週	2 月 27～3 月 4 日
第 10 週	3 月 5～11 日
第 11 週	3 月 12～18 日
第 12 週	3 月 19～25 日

◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

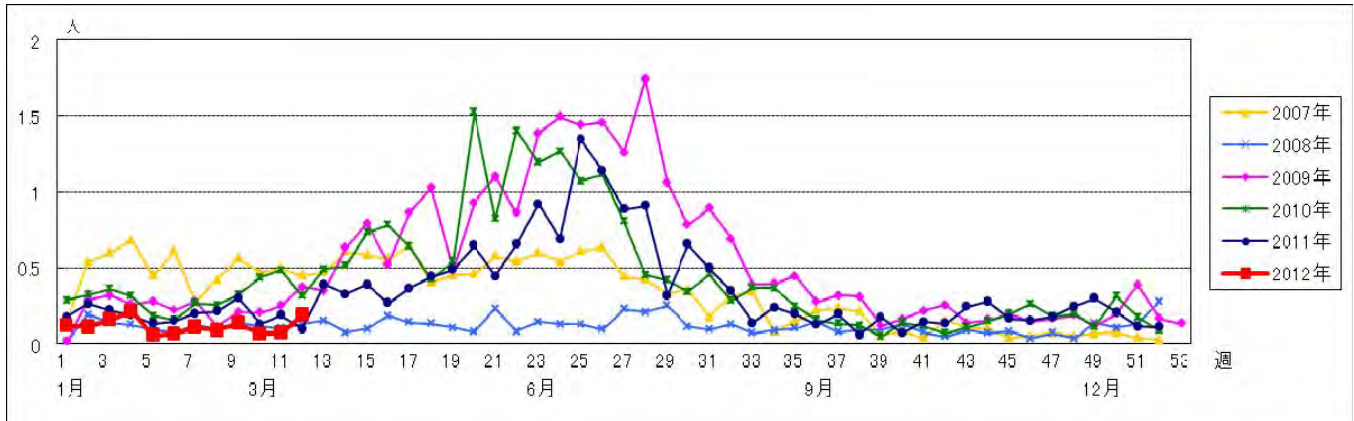


2 感染性胃腸炎:市全体では第12週では6.56と落ち着いていますが、神奈川区では第12週15.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



3 伝染性紅斑:市内全体では、第12週0.19と落ち着いていますが、中区2.00で警報レベルとなっています。



4 性感染症:2月は、性器クラミジア感染症は男性が11件、女性が5件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が6件、女性が1件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第9週0.77、第10週0.79、第11週0.79、第12週0.74と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第9週では定点あたり0.33、10週0.00、11週0.00、12週0.50と、前シーズンの第9週0.00、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:2月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>